



今井小だより

横浜市立今井小学校

令和8年9月30日

学校だより 9月号

学校教育目標 : か が や い て い る 子 「自分大好き！今井大好き！」

自分を客観視する力

校長 高嶋 聡

例年になく雨の多い9月となりました。各地では大雨による被害も大きく、土砂災害の危険区域を含む本校の学区についても心配な状況が続きました。改めて自然の力を甘く見ることなく、早めの情報収集や判断、そして日頃から備えておくことの大切さを感じています。

近年、「VUCA（ブーカ）時代」という言葉を耳にする機会が増えました。これは、変化が激しく、不確実で複雑な、先の見通しをもちにくい時代を表す言葉です。このような時代だからこそ、「自分はどうか考えるのか」「何を選ぶのか」を、自分自身で考え、判断する力がますます大切になっています。

私は、その土台となる力の一つが、「自分を客観視する力」だと考えています。夏休み明けの朝会で子どもたちに「もう一人の自分を育てよう」という話をしました。私たちは毎日の生活の中で、ついつい人には厳しく、自分には甘くなってしまうことがあります。友達の失敗にはすぐ気付くのに、自分の失敗には理由を探してしまう。相手の言葉には敏感なのに、自分の言葉が相手にどう伝わったのかには気付けない。そんなことはないでしょうか。もちろん、これは子どもだけでなく、私たち大人にも思い当たるところがあります。だからこそ、自分を少し離れたところから見つめる「もう一人の自分」を心の中に育ててほしいと思っています。

「今の自分はどうかだったかな」「相手からはどう見えただろう」「次はどうすればもっとよくなるだろう」。そんなふうに自分自身に問いかけることができれば、失敗も大切な成長のきっかけになります。また、自分を見つめることは、相手の立場や考えに目を向けることにもつながります。

こうした力は、小学校6年間の中で少しずつ育っていきます。

低学年では、まず自分の気持ちに気付き、「うれしい」「悲しい」「悔しい」など、感情を言葉にすることが大切です。そして、「友達はどんな気持ちだったのかな」と考える経験が、自分自身を見つめる土台になります。中学年になると、自分の行動や学習を振り返る力が育ってきます。「できた」「できなかった」だけでなく、「ここは頑張れた」「次はこうしてみよう」と振り返ることで、自分を少し離れて見る力が身に付いていきます。また、「自分とは違う考え方もある」と気付き、物事をさまざまな角度から見る力も育っていきます。高学年になると、自分の良さや課題をより客観的に捉えられるようになります。自分の考えや行動を振り返り、「では、どうしたらよいか」と修正していく力も育ちます。委員会活動やクラブ活動、縦割り活動などを通して、自分だけでなく集団全体のことを考える経験も増え、判断力やリーダーシップにもつながっていきます。

そして、小学校を卒業する頃には、「自分はこう考える。でも、別の考え方もあるかもしれない」と、さまざまな角度から物事を考えられるようになってほしいと思っています。答えが一つではない時代だからこそ、自分自身を見つめ、相手の考えにも耳を傾けながら、「では、自分はどうするのか」を考えられる子どもたちを育てていきたいと思ひます。

子どもたち一人ひとりが、失敗や迷いも成長の糧にしながら、よりよい未来へ歩んでいけるよう、これからも学校と家庭が力を合わせて支えていきたいと思ひます。